

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。梅雨本番です。腰痛が気になる季節ですが、くれぐれもご自愛ください。さて、**お釈迦様の生涯**をお伝えしている今年のかわら版。今月はお釈迦様に弟子が誕生します。

★梵天勸請(ぼんでんかんじょう)

菩提樹の下で悟りを開いたお釈迦様。しかし、その悟りの内容は深淵で言葉に表し難いと感じたようです。お釈迦様としては悟りの境地を得るといふ目的を達したことであって、この際、そのまま瞑想を続けて**涅槃(ねはん)**に入ろうと考えたそうです。その時、一部始終を天界から見ていた**梵天**がお釈迦様の前に表れ、悟りの内容を人々に説き、**衆生**を救う努力をするように熱心に勧めました。



この出来事は**梵天勸請**と言われます。梵天の説得を聞き入れ、いよいよお釈迦様の説法が始まります。

★釈迦牟尼世尊

ところで、悟りを開いたお釈迦様のことを**仏陀(ブツダ)**と呼ぶことは先月号でお伝えしました。

お釈迦様に**乳粥**を供養した**スジャータ**の住む**ガヤ**村は、仏陀が悟った場所という意味で**ブツダガヤ**と呼ばれるようになりました。

やがて、お釈迦様は**シャークヤ**の**聖者(ムニ)**として**シャークヤムニ**とも言われるようになります。後に中国では漢字で**釈迦牟尼(しゃかむに)**と表され、**釈迦牟尼世尊**、略して**釈尊(しゃくそん)**とも呼ばれるようになります。

★初転法輪(しょてんぽうりん)

さて、お釈迦様はまず、かつて師事した**三仙人(バッカバ、カラーマ、ラーマフトラ)**を訪ね、自分が悟った内容を話そ

うと思いましたが。ところが、三仙人はもはやこの世にはないことを知ったお釈迦様。そこで、かつて一緒に修行した**五人の沙門**を相手に説法を行うこととしました。

その頃、五人は**サールナート(鹿野苑)**という場所まで修行に励んでいました。お釈迦様が修行を諦めて墮落したと思っていた五人は、お釈迦様がやって来ると聞いて「**シッタールタ**が来たら無視しよう」と決めていたそうです。



「サールナート=鹿野苑」お釈迦様が悟りを開いた後、初めて説法を説いた初転法輪の地。

いよいよお釈迦様が五人のところにやって来る日。五人はだんだんと近づいてくるお釈迦様の神々しい姿に心を打たれ、思

わず足もとに伏したといひます。こうして五人はお釈迦様の最初の弟子となりました。五人の弟子に初めて教えを説いたことを**初転法輪**と称します。

★三宝と阿羅漢

五人の弟子ができたことで、「**仏**」としての**お釈迦様**、その教えである「**法**」、それを受け継ぐ「**僧**」という**三宝(さんぼう)**が揃ったことになりました。

お釈迦様の説法を聞き、修行を続けた五人はやがて悟りを開きます。お釈迦自身を加えて、**六人の阿羅漢(あらかん)**が誕生しました。阿羅漢とは**アルハット**というサンスクリット語の音写で、「**供養を受けるに値するもの**」という意味のようです。サーナルトのあった**ヴァーラーナシー**という街の長者の息子**ヤシャ**もお釈迦様に弟子入り。続いてヤシャの友人四人、それぞれ悟りを開きました。ここに、**六十一人の阿羅漢**による**仏教教団**が成立しました。

★四衆(しじゅう)

来月は僧、尼僧、男性信者、女性信者の**四衆**が誕生していく過程をお伝えします。乞ご期待。

